

＊古平町子育て支援センター＊



令和5年6月22日(木)発行

まだまだ気温の変化が厳しく、風邪や感染症などが流行る時期にもなります。町内でも新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、アデノウイルス、溶連菌、RSウイルスなどの感染症が出ています。予防に気を配りながら元気に過ごしましょう！

また、これからは雨の季節にもなり、外で遊べない日も多くなると思います。そんな時は支援センターへ来て運動不足の解消を！是非遊びに来てリフレッシュして下さいね。



・・・広場の様子を紹介します・・・



＊今後、砂遊びや水遊びなど、夏ならではの遊びも予定しています。
＊支援センター利用の際は、室内活動であっても、汗拭きタオル、水筒、着替え、帽子の準備を忘れずに持参して下さい。

※小さいお子さんや戸外遊びが負担になるお子さんは、支援センター内で過ごす事も出来ますので気軽に遊びに来て下さいね！

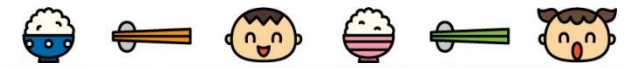
おたまじゃくしとカエルさん元気でね♡

4月に幼児センターの年長さんが捕ってきてくれて支援センターで飼育していたカエルの卵。卵が孵り、おたまじゃくしになり、小さなカエルに生長しました！みんなに沢山見てもらい大きくなりました。ずっと元気でいられるように外にかえしてあげました。

元気な姿でまた来年会えるといいですね！



・・・第1回給食試食会・・・



6月13日(火)4名の親子が参加しました！美味しそうに食べる姿がとても印象的でした。

アンケートにもご協力頂きありがとうございました。

今回参加出来なかった家庭も次回はぜひご参加下さい。



知っておこう！～マダニの生態・処置方法～

マダニとは、生息地は山林や草原で春から秋にかけて活動します。マダニとは大型ダニの総称で動物などに寄生吸血します。通常、の体長は3mmくらいですが、吸血すると1～1.5cmにも膨れあがります。マダニに刺されたら多少の痛みや痒みがありますが、刺されたからといって全ての場合で症状が出ることはありません。症状が出るのは、刺されたマダニが媒介する主な国内感染症は、日本紅斑熱・ライム熱・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）です。発熱、発疹、頭痛などがみられ、重症になると死に至ることもあります。マダニに刺されても、あまり痛みや痒みを感じないので気付かないことが多いです。しかし、血を吸い続けることによってマダニは大きくなります。マダニに刺されたら、処置は決して慌ててマダニを手で引っ張って自分で取らないで下さい。もし、手で無理に引っ張って取ろうとすると皮膚の奥深く刺さっているマダニの頭部や口部分が皮膚の中に残ってしまい感染症の原因になります。だから、ちょっと気持ち悪いかも知れませんが、マダニが咬んだそのままの状態ですできるだけ早く皮膚科を受診して下さい。

病院が休みなどですぐに受診できない場合は、先が細いピンセットや毛抜きなどを使用し、マダニの口をつぶさないように、できるだけ皮膚に近い部分のマダニをつかんで慎重にゆっくりと上に引っっこ抜きます。

引っっこ抜いた後は、その部分を消毒しておきましょう。念のために、後日、皮膚科を受診しましょう。



じょうずな手の洗い方

～しっかり丁寧に洗い、ばい菌を流しましょう。～

① 水道水で手をぬらす。



② ハンドソープ等で手の平、甲を洗う。



③ 指と指の間を洗う。



④ 親指を反対の手でつつんで洗う。



⑤ よくこすって爪の間を洗う。



⑥ 手首を洗う。流水で洗い流す。

